





rden from across the Spree Canal. stos on pp. 94–99 by NOSHE. posite, top: Approach to the house. posite, bottom: Ruin Garden. This

94~95頁:シュプレー川から住宅と廃墟 の底を見る。左頁、上往宅へのアプローチ。 左頁、下:廃墟の底。本頁:廃墟の底から 住宅を見る。



Credits and Data
Project title: House on the Spree
Client: Tanja Lincke and Anselm Reyle
Location: Raumschulenstrasse, Treptow-Köpenick, Berlin, Germany
Design: 2013
Completion: 2017
Architect: Tanja Lincke Architekten
Design team: Tanja Lincke, Helge Engbert, Anja Rigamonti
Project team: Fielder Ingenieure GrubH (structural engineering), Müller BBM
(building physics)
Site area: 8,360 m²
Gross floor area: 446 m²

4 Site plan (scale: 1/1,000)/配置図(編尺: 1/1,000)

Opposite, top: Dining area. The table uses wood that was felled for the construction of the house. Opposite, bottom: Furniture made of zebrano wood veneer divides the living area.

右翼、上:ダイニング・エリア、作宅違力 のために民様された木材が使われたテーソ ルを見る。右翼、下:ゼフラノ(ゼブラ・ウッド)の合板でつくられた家具が原間エリア を仕切る。

旧ドイツ民主共和国 (東ドイツ)の水上警察 ように見える。 用観工場路地での新たも住宅の建設 コアが長手方向のつながりを進るのを进け コンクリートの即選集、土手の開発、1970 そため、コアに変とめられた階級・キッチン・ 海室の間にはガラス・プロックが使用され 辺環境に深け込みながら、この態物は川間 た。ガラス・プロックが使用され のレヴェルからもち上げられ、広々とした。 仮称の建物にも見ることができる。 仮称の建物にも見ることができる。 シュプレー川の筑望を得る。隣接する廃墟 の庭と影響し合う場所に建ち、シュブレー 躯体の施工機能に設けられた落下防止の相

の版と影響し合う場所に贈与、シュブレー 川の味望が変調的に演出されている。 接物の分類は、機能酸化処理部材を用いた ガラス・ファサードが特徴的である。機能 総必選率も1079年代を参照した手法であ る。窓と換気用高温の帯が天井のパネルを 一体に関づ合わせ、人間のスケールを促ち かがらも、内閣型を指するプロボーショ ンをもたらしている。 職化別担も19/0年代を参照した予まである。 窓と換気用高窓の帯が天井のパネルを 一体に結び合わせ、人間のスケールを保ち ながらも、内部空間に新たなプロボーションをもたらしている。 列柱は、未仕上げの木の型枠で打飛された。

エキスパンション・ジョイントの使用を避けるため、上部パラペットのコーニスも軽量コンクリートでつくられている。 打放しコンクリートの必要がない工業用パネルの 型枠で打設された軽量コンクリートのコア が建物全体を買いている。 狭く窓のないコ アは、四周がすべて外に開かれた居住階と は対談的である。 居住階からは川岸が視界

から外れ、川は建物のすぐ下を流れている

プレキャスト・コンクリートの階段

すために、透光谱もような布地に特別なグ ラデーションが発色された。 ゼプラ/(ゼプラ・ウッド)の合板でつくら れた両側から使える家具が、顔性空間を応 がけい、区面を受けている。回販を分ける 扱いカップボードのユニットが、理覧で変を つくりだしている。カップボードの背面は ブラスター仕上げのクレー・パルででき ており、室内境境を開整する。 (4月円曜年19)

(中田雅章訳)



